

平成30年度 6月定例会 いわさ義弘 一般質問 (質問・答弁要約)

一般質問の様子は徳島県議会HP

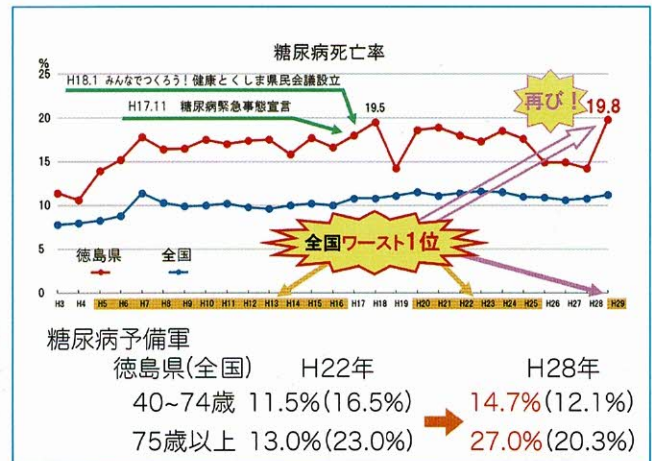
<http://www.pref.tokushima.lg.jp/gikai/> で動画配信しています。ご覧ください。

Q1 糖尿病対策について

糖尿病死亡率が4年ぶりに全国「ワースト1位」となった。糖尿病対策を最重要課題として取り組んでいるが、本県は予備軍の割合も高く、特定健診受診率向上や意識啓発など長期的対策が必要。市町村等と連携し、ワースト1位脱却に向け今後どのように取り組むのか？

A 飯泉知事

今回の結果を受け直ちに緊急対策会議を開催し、分析や今後の取組みを協議した。高齢者への対策として予防講座の充実や介護施設との連携、食生活改善として野菜摂取量アップへの事業実施、運動不足解消へ「ウォークビズ」の推奨など、糖尿病克服へスピード感を持ち取り組む。



※ウォークビズ...スニーカー等の歩きやすい靴での通勤や勤務

<コメント・考え> 全ての県民が危機意識を持つ啓発活動、若い世代からの運動習慣定着が必要。車社会と糖尿病との相関もあり、今後公共交通の役割も考慮する必要がある。

Q2 避難所の確保及び避難環境の整備について

熊本地震では、地震での直接死の4倍超の方々が「災害関連死」であった。災害関連死を防ぐには、十分な避難所数の確保と快適な避難所環境が必要。津波等による浸水想定、長期避難時の一人当たりのスペース確保を考慮するとその容量は十分でない。発災時の避難所確保や快適な避難環境整備にどう取り組むのか？

A 危機管理部長

復興への第一歩を踏み出すためにも、避難生活の場所の確保と環境整備は重要。国の事業を活用した避難所の耐震化や機能強化に合わせ、県の緊急対策事業で機能強化やQOL向上を支援。ソフト面では「健康管理」の視点を新たに盛り込んだ、避難所運営のワークショップ等を行う。

※QOL...「生活の質」

<コメント・考え> 避難所の容量は不十分であり、更なる場所の確保やQOL向上が必要。現在H32年までとされる国の緊急防災減災事業債の更なる延長・恒久化を強く求めてゆくべき。

Q3 那賀川下流域における治水対策について

長安ロダムを含め流域全体での治水対策、災害に強い街づくりが地域発展につながる。上・中流域での治水対策に加え、下流域での流下能力向上や適正な河道管理が重要。安全な堤防を造り、洗掘対策と共に流下断面の確保を進め、スムーズに洪水を流すことができる治水対策と内水対策を進めるべきと考えるが、治水対策の取組みは？

A 政策監補

新たな「那賀川水系・河川整備計画」に基づき、床上浸水対策特別緊急事業を進めるとともに、「総合土砂管理計画」で流れを阻害する樹木の伐採や堆砂土砂の掘削等を行い適正な河川管理に取り組む。更に堤防漏水対策や地震津波対策を進め、未来を見据えた川づくりに取り組む。

<コメント・考え> 激甚化する豪雨に備え、中小河川においても適正な河道管理が必要。無堤地区解消に伴い内水による浸水被害増加も想定し、排水ポンプの増加配備も検討する必要がある。

Q4 県営住宅の管理方針について

県下36地区に県営住宅があり、築40年以上のものが多い。一部の棟では雨漏りなど痛みのひどい部屋の増加やエレベーターがないことなどから、入居者数が減少し自治会活動にも影響している。少子高齢化によるニーズの変化や災害発生時の見なし仮設住宅としての役割をふまえ、今後どのように管理し団地の活性化を図るのか？